こんにちは 教育委員です





発行:今金町教育委員の会
〒049-4393 北海道瀬棚郡今金町字今金48−1
TEL:0137-82-3488【No.66】H21(2009).7.24
E−mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

公立高校配置計画地域別検討協議会
道教委「檜山北高校１間口減」を提示

去る、７月７日檜山支庁において檜山学区を対象とする本年度２回目となる公立高校配置計画地域別検討協議会が開催され、道教委から檜山北高校の間口減（３間口→２間口）が正式に提示されました。



檜山北高校は、本年度入学者が７７名にとどまり２学級になったことにより、次年度からの配置計画を２間口とすることや間口を１減しても町立瀬棚商業高校があることで檜山北部としては３間口が維持されるとの見解が示されました。

これを受け、今金町から出席した今金町長、今金町教育長、今金中学校長、今金中学校 PTA 会長からそれぞれの立場で反対の意見を述べ、道教委側は「今回の意見を持ち帰り、さらに検討したい」と答えるにとどまりました。次回の地域別検討協議会は９月に開催され、２０１０年度から１２年度までの配置計画が提示されます。

【教育長発言要旨】

前回、４月２０日に開催された第１回の地域別検討協議会では、檜山学区の現状と課題の中でも、檜山北高校の間口減の方向については道教委からまったく提示されておらず、今金町としては、今金中学校の保護者や地域にも間口減の問題についての懇談や具体的な情報提供をしていない現状にあります。

更には、檜山北高校は統合校であり、せたな町ともこの問題について公的な話し合いの機会をもっていない現況の中で唐突ともいうべき配置案の提示は信頼を損なうことにもつながるものと懸念しています。

来年の４月から間口減の現実を認識し、進路相談、進路決定に臨む生徒や保護者、教職員がその方向が決まるのは本日提示され、３ヶ月後の９月に決定してしまうのはあまりにも拙速で配慮に欠けるものであり、今後、地元主催の説明会に道教委が出向き情報提供し、地域の声を聞くにしても期間的に問題があると考えます。

また、前段述べたとおり檜山北高校は、今金町と旧北檜山町、現在のせたな町との統合校であることや町立瀬棚商業高校の今後など北部地域の複雑な事情を考慮した丁寧な進め方が必要と考えます。

従って、間口の減は、次年度以降の課題として本年度については３間口で募集し、３学級維持に努力する方向が望ましいと考えます。

更に、総合学科の間口減は道内で初めてのケースであり、総合学科の特色を考慮し、自由選択科目などを維持するためには、普通高校と同じ教職員の段階的な削減配置ではなく、北海道の地域的な課題も最大限に考慮した特例的な配置を考えるべきであると考えます。

また、檜山北部は、道南でも有数の穀倉地帯であり、農業が基幹産業であることからせたな町、今金町両町では農業後継者の育成の場としても檜山北高校に大きな期待を寄せており、平成１２年１１月より「檜山北高等学校振興会」を組織し、両町長が隔年で会長を務め、構成は、せたな町、今金町、今金町農協、北檜山農協、新函館若松支店で年間 200 万円を超える負担金により檜山北高校が将来ともに活力に満ちた魅力ある学校であるために教育活動や農業教育振興のための各種支援活動を行っている現況も併せてご理解願いたい。

□ 今後の要請活動

７月 10 日	北部４中学校（今金中学校、大成中学校、北檜山中学校、瀬棚中学校）PTA 会長の連名で今金町長、せたな町長へ檜山北高校３間口の維持に関する要望書提出
７月 15 日	今金町長・せたな町長が檜山教育局長訪問（間口維持要請）
７月 21 日	今金町長・せたな町長が北海道教育庁訪問（間口維持要請）

〔今金中学校保護者説明会〕

７月１６日今金中学校を会場に３年生の保護者を対象とし檜山北高校、瀬棚商業高校から進学指導・就職指導担当教諭を招いての学校（進学）説明会が開催され、その前段中島教育長から檜山北高校の間口減に関するこれまでの経過と今後の対応等について保護者への説明が行われました。





委員寄稿「歳時記」



今月は、平井委員長職務代理です。

『杓低一残水汲流千億人』

～杓低の一残水、流れを汲む。千億人～

十年程前に、合掌造りで有名な世界遺産白川郷、水の町郡上八幡、飛騨の小京都と呼ばれる高山、下呂温泉宿泊、木曽川日本ライン船下り、大山城を見学、限りなく山また山の旅路でした。



豪雪と闘った合掌造りの家々と、そこに生活した人々の姿と知恵が目に浮かびます。腕利きの宮大工が多かったため、飛騨の匠と呼ばれ、高山祭りに使用する創意と技術を傾けた見事で豪華な、裃姿（かみしもすがた）のからくり人形が高山屋台会館に展示されている。



表記の句は、水の町郡上八幡を訪れたときに、ふと思い出しました。

曹洞宗大本山永平寺の正門に、水を生命として道元禅師が、柄酌の残り水を流れにもどされ、その法水が数限りない人々の心の渇きを癒している幸せを詠いあげた句です。

郡上八幡の独特な水利用は、よくテレビで紹介されていますが、湧き水や山水を“水舟”とよばれる二槽から三槽からなる水槽に引き込み、水をろ過し、最初の水槽が飲用や食べ物を洗う、次の水槽は汚れた食器などの洗浄、そこで出たご飯つぶや残りの食べ物はそのまま池に流れ、そこで飼われている鯉や魚のエサとなり、水は自然に浄化され川に流れていきます。また、洗濯場もありご近所の社交場になったりしています。さらに火事に備えた防火用水になったりします。上流の人は下流の人への思いやりの心を自然に育んでいたと思います。



水は命の源です。田圃や畑や牧場や森林を潤し米や食物や生活に必要なものを与えてくれます。水に感謝し大切さ有難さを感じ粗末にしないことを心がけていただきたく思います。最後に中国人農業研修生の黄全央（こうぜんおう）さんの言葉を紹介します。

水の五則

一　みずから活動して他を動かしむるは、水なり（自分から実行する）

二　常におのれの進路を求めてやまざるは、水なり（淀んだ水は腐る）

三　障害にあって激しくその勢力を百倍し得るは、水なり（エネルギーは障害に比例して大きくなる）

四　自ら潔くして他の汚濁を洗い、清濁あわせいるる量あるは、水なり（汚水の汚れは泥水で洗う）

五　洋々として大海をみたし、発して霧となり、雨雪と変じ、あられと化す。凍っては、玲ろうたる鏡となり、しかもその性を失わざるは、水なり（人間の心はよく変わるが、その本性に変わりは無い）

〈参考〉

水の功徳「八功徳水」（八種の勝れた特質（功徳）を具えた水）

一つには　浄らかに澄んでいること。
二つには　清く冷ややかである。
三つには　甘くおいしい。
四つには　軽く柔らかい。
五つには　しっかりと潤いがある。
六つには　穏やかで安らかである。
七つには　飲むと飢や渇きなどの量りない患いを除く。
八つには　飲みおわるとかならず身体を養い、いろいろのすぐれた善根を増す。